

第1回 南空知地域公共交通活性化協議会総会

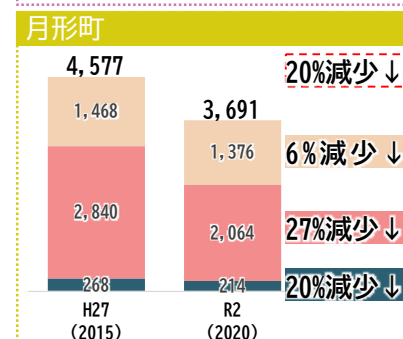
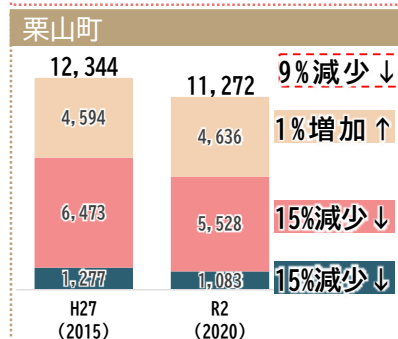
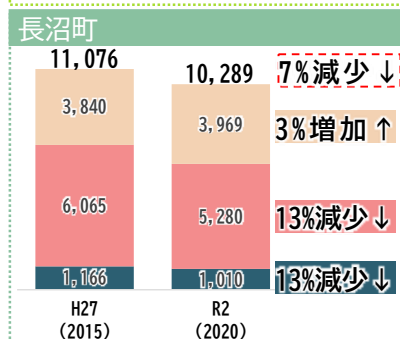
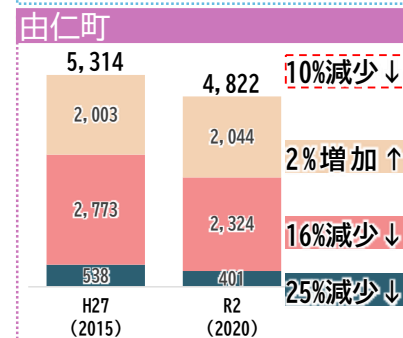
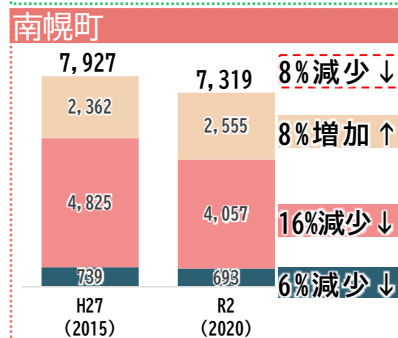
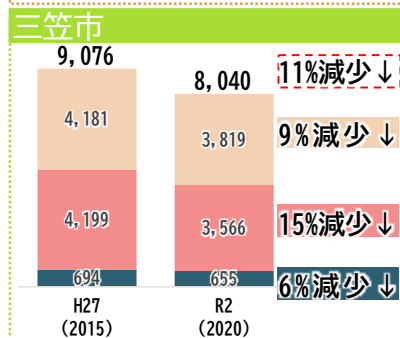
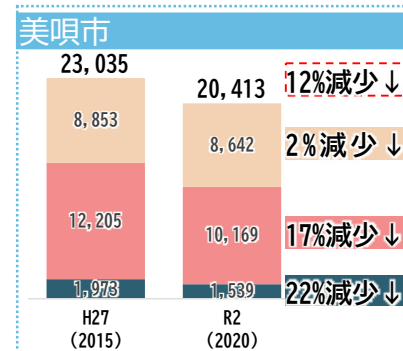
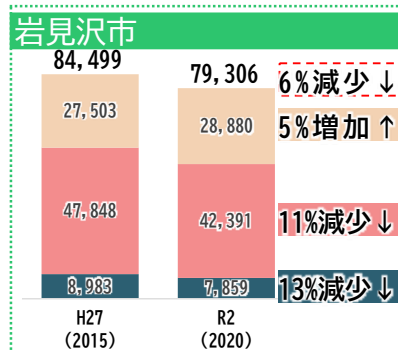
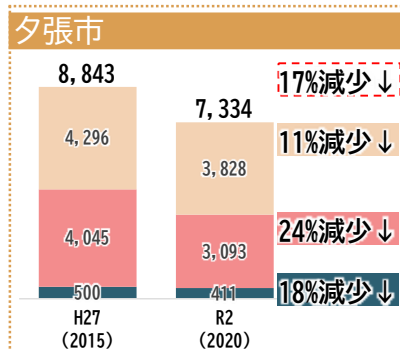
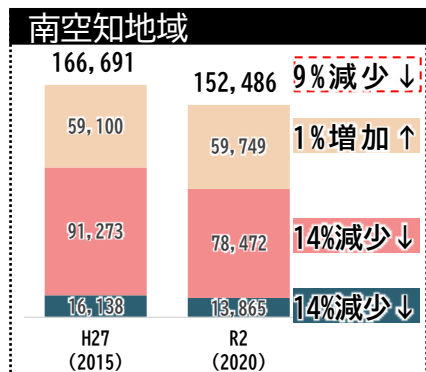
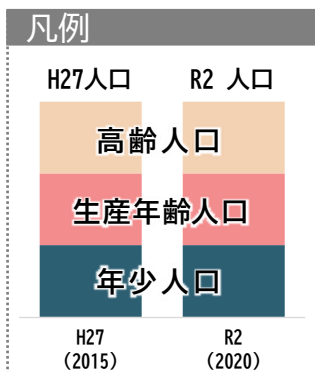
令和5年7月

1 南空知地域の概況 - 人口動態

1-1 南空知地域における人口動態

通学世代は、毎日の利用が想定されることから、公共交通利用者1人あたり年間200日以上の利用が見込まれ、公共交通の利用者数の維持に大きく寄与していると考えられるため、**通学世代の利用が多い市町間の公共交通ネットワークの維持が重要**です。

また、全体の高齢化率が約40%となっており、今後、円滑な免許返納を後押しする移動手段の充実及び免許返納後の移動手段の確保に向けては、**買物や通院などの目的に対応する生活圏内を円滑に移動できる公共交通ネットワークを維持することも重要**です。



1 南空知地域の概況 - 通学者

1-2 南空知地域における通学者の状況

通学者の状況を整理すると、南空知地域内での移動のほか、さっぽろ連携中枢都市圏と南空知地域間での往来も一定数見られている状況です。しかし、南空知地域を起点とした通学者人口は、平成27年度国勢調査と比較すると、地域内通学で24%減少、地域外通学で27%減少となっており、人口減少等の要因による減少率が大きく、南空知地域単独で現状の交通体系を維持し続けることは難しいことが想定されます。

一方で、通学利用や生活利用（買物・通院）による一定の利用は見込まれるため、**生活圏を考慮しつつ、南空知地域における需要が多い区間を明確化し、需要が少ない区間では運行形態などのダウンサイジングを図り、需要が多い区間の運行に交通資源を再配分することで、各市町間の公共交通ネットワークを維持することが重要**です。

■H27とR2国勢調査における通学者数の比較

出発地	到着地																			
	夕張市	岩見沢市	美唄市	三笠市	南幌町	由仁町	長沼町	栗山町	月形町	札幌市	江別市	北広島市	千歳市	砂川市	恵庭市	当別町	新篠津村	小樽市	旭川市	苫小牧市
夕張市	140	12	0	0	2	-	1	4	0	12	-	1	7	0	5	0	0	-	-	1
岩見沢市	-	2,460	92	1	1	-	-	38	29	814	181	8	11	15	57	32	13	15	16	18
美唄市	-	254	470	1	-	-	1	-	2	168	30	6	1	3	6	7	2	1	5	-
三笠市	-	120	15	155	-	-	-	-	-	33	13	-	-	-	3	2	-	1	2	-
南幌町	-	21	-	-	79	-	6	21	-	171	98	35	2	0	10	2	-	4	-	2
由仁町	-	83	-	-	-	33	-	30	0	13	6	4	4	0	9	0	1	0	1	2
長沼町	-	31	1	-	5	-	179	2	-	116	23	34	24	-	17	2	1	2	-	8
栗山町	1	139	4	-	1	-	-	204	-	55	14	4	1	2	10	2	1	1	1	2
月形町	0	21	1	-	-	0	-	-	47	25	6	0	1	-	-	2	-	-	1	1

南空知地域内で
通学する人口は24%減少

近隣自治体へ
通学する人口は27%減少

出発地	到着地																			
	夕張市	岩見沢市	美唄市	三笠市	南幌町	由仁町	長沼町	栗山町	月形町	札幌市	江別市	北広島市	千歳市	砂川市	恵庭市	当別町	新篠津村	小樽市	旭川市	苫小牧市
夕張市	104	9	3	-	-	-	-	2	-	8	5	-	1	-	1	-	2	-	1	1
岩見沢市	1	1,901	43	1	-	-	-	12	12	563	202	7	4	9	40	20	22	17	8	11
美唄市	-	217	381	2	-	-	-	1	-	128	33	2	2	6	7	5	13	3	-	2
三笠市	-	100	5	140	-	-	-	-	-	21	18	1	-	-	-	1	2	-	1	-
南幌町	-	12	-	-	50	-	-	9	-	66	50	20	3	-	13	-	-	3	1	1
由仁町	2	56	1	2	1	23	4	13	-	32	11	4	5	-	7	-	-	-	-	2
長沼町	-	34	-	-	2	-	91	1	-	80	16	34	19	-	17	3	1	-	-	7
栗山町	1	142	2	1	4	-	-	142	-	50	17	4	2	-	4	-	1	1	1	2
月形町	-	20	1	-	-	-	-	-	25	14	3	-	-	-	1	4	-	1	-	-

1 南空知地域の概況 - 公共交通網

1-3 南空知地域における公共交通網の状況

JR室蘭本線岩見沢駅～沼ノ端駅は令和3年度の乗車密度は300人となっている一方で、過年度の調査では、朝や夕方のピーク時に1便あたり100人以上の利用がみられており、鉄道の持つ大量輸送の役割が適している状況であるため、**現状の鉄道交通ネットワークを確保することが重要**です。

また、南空知地域を運行するバス路線において、夕張鉄道株式会社が運行する3路線は、令和5年10月に廃止予定であり、夕張市から栗山町を経由して長沼町までの交通ネットワークが断絶されないように代替手段が検討されています。

そのほか、1回あたりの輸送量が15人（地域間幹線系統補助の基準）を下回る路線についても、関係者間で進められてきた協議結果等を踏まえ、国土交通省の地域旅客運送サービス継続事業などを活用し、**地域の交通ネットワークが断絶されないよう当該路線の方向性を示すことが重要**です。

■南空知地域を中心とした現状の公共交通網及び課題



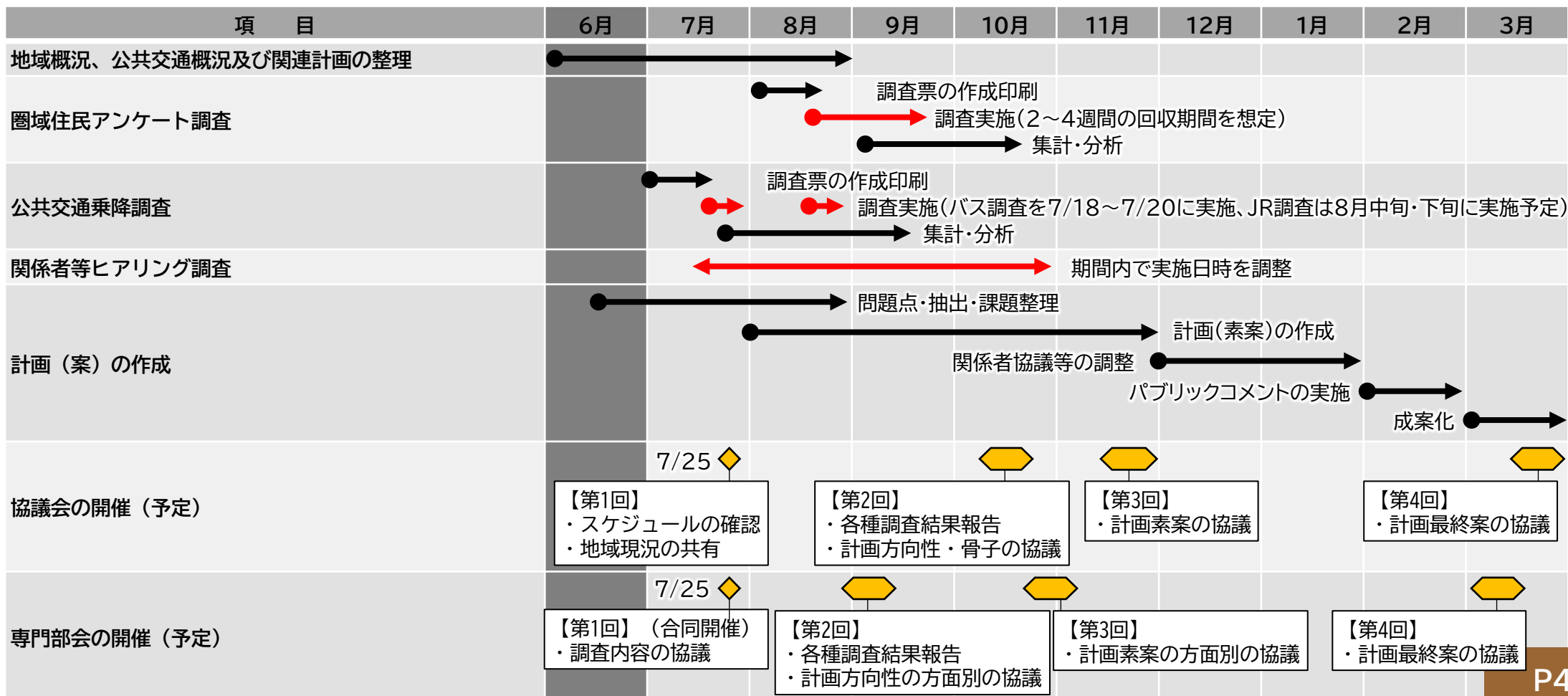
2 南空知地域公共交通計画の策定について

2-1 本計画策定の目的

人口減少及び高齢化が進行する南空知地域において、公共交通路線の利用者の減少や乗務員不足などにより、地域公共交通の維持確保が難しくなっている一方で、主に通学、通院などを中心とした生活交通として利用されています。

こうした中、令和2年11月の地域公共交通活性化再生法の改正を踏まえ、地域住民の生活を支え、持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域のマスタープランとなる「南空知地域公共交通計画」を策定します。

2-2 本計画の策定スケジュール（案）



3 圏域住民アンケート調査について

3-1 調査目的

公共交通網の検討に向けては、各市町や地区ごとで異なる住民の生活実態や公共交通に対するニーズを的確に把握し、また、公共交通の利用者となるターゲット層を浮き彫りが重要であるため、住民の移動実態（市町内の目的地及び町外の目的地や移動頻度、移動時間帯など）や市町内のバス路線及び広域公共交通に対するニーズ（公共交通の満足度調査及び交通結節点に必要な機能など）の把握を目的に調査を実施します。

3-2 調査概要

調査時期	・ 8月上旬～8月中旬を目処に配布 ※配布から2～4週間の回収期間を想定
調査方法	・ 郵送による配布・回収（全8,970世帯に対し2票配布） ・ WEB上での回答体制も構築 ※郵送・WEBを合わせて回収率30%を想定
配布世帯数（案）	・ 一定の統計精度を確保できる調査対象世帯数を設定（信頼確率95%） ※岩見沢市は人口及び世帯数の規模が他市町と比較して非常に多いため、配布世帯数を増やした調査実施を検討 ・ 下表の配布世帯数（案）をもとにランダム抽出を想定
調査項目（案）	・ 個人属性、移動実態、公共交通ニーズ等 ※一般住民向けのアンケート調査票に加え、高校生向けの簡便な調査票も作成 ※調査票の分量：一般住民⇒A3両面2枚分の分量 高校生 ⇒A4片面1枚分の分量

表：各市町の配布世帯数（案）

夕張市	岩見沢市	美唄市	三笠市	南幌町	由仁町	長沼町	栗山町	月形町
810世帯	2,520世帯	820世帯	810世帯	810世帯	790世帯	820世帯	820世帯	770世帯



岩見沢地区	840世帯
東・栗沢地区	840世帯
北・北村地区	840世帯

詳細は別紙のアンケート調査票（調査票A・調査票B）をご覧ください。

4 公共交通乗降調査について

4-1 調査目的

南空知地域内を運行する公共交通（JR・バス）の利用目的や乗継有無などの利用状況、バス停・駅別の利用状況の詳細把握を目的として、調査員の乗り込みによる調査を実施し、利用が多い区間や時間帯などの路線特性を把握し、本地域の公共交通路線の方向性等の検討の基礎資料として整理することを目的に調査を実施します。

4-2 調査概要

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> 7月18日～20日：バス路線調査 ※調査結果の精度確保のため複数の調査日に分け実施予定 8月中旬～下旬：JR路線調査 ※7月18日～20日は他のJR関連調査が複数実施されており受け取り拒否などによる調査結果の精度低下が懸念されたため調査時期を変更 	
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 調査員が乗り込むことによる調査 ※右の調査票（中空知地域の事例）を配布・回収 	
調査対象路線 (17路線)	JR北海道	室蘭本線（岩見沢駅～追分駅）
	中央バス	高速いわみざわ号、高速みかさ号、 高速ゆうぱり号、高速くりやま号、 岩見沢美唄線、三笠線、月形線、 岩見沢栗山線、岩見沢由仁線、 岩見沢長沼線、夕張線
	夕鉄バス	新夕張駅前～新札幌駅前、 りすた～新札幌駅前、 栗山駅前～新札幌駅前
	下段モータース	月形当別線
	JR北海道バス	長沼線

公共交通乗降調査にご協力をお願いいたします

【調査実施主体】：北海道 空知総合振興局 地域創生部 地域政策課 担当者：宗山、長田
 【調査実施機関】：日本データサービス㈱ 計画調査部 担当者：東本、中野
 各質問について、該当箇所を指で折り込み、降車の際に調査員へお渡しください。

問1 利用目的
 ① 通勤(帰宅) ② 通学(帰宅) ③ 買物(帰宅) ④ 通院(帰宅) ⑤ 私用(帰宅) ⑥ 観光(帰宅) ⑦ 業務(帰宅) ⑧ その他(帰宅) ⑨

問2 この乗り物に乗車する前の交通手段
 ① 徒歩 ② 自転車 ③ 自動車(自ラ運転) ④ JR(高良野方面) ⑤ JR(滝川・旭川方面) ⑥ JR(岩見沢・札幌方面) ⑦ 高速(たきかの号) ⑧ 高速(ふらの号) ⑨ 高速(るもい号)
 ⑩ 滝深線(音江経由) ⑪ 滝深線(南富良野) ⑫ 滝川美唄線 ⑬ 滝川奈井江線 ⑭ 滝芦線 ⑮ 歌志内線 ⑯ 上砂川線 ⑰ 滝川浦臼線 ⑱ 月形浦臼線
 ⑲ 新十津川線 ⑳ 滝新線 ㉑ 滝川市内線 ㉒ 市営・町営バス ㉓ 乗合タクシー ㉔ タクシー ㉕ スクールバス ㉖ その他

問3 この乗り物から降車した後の交通手段
 ① 徒歩 ② 自転車 ③ 自動車(送迎) ④ JR(高良野方面) ⑤ JR(滝川・旭川方面) ⑥ JR(岩見沢・札幌方面) ⑦ 高速(たきかの号) ⑧ 高速(ふらの号) ⑨ 高速(るもい号)
 ⑩ 滝深線(音江経由) ⑪ 滝深線(南富良野) ⑫ 滝川美唄線 ⑬ 滝川奈井江線 ⑭ 滝芦線 ⑮ 歌志内線 ⑯ 上砂川線 ⑰ 滝川浦臼線 ⑱ 月形浦臼線
 ⑲ 新十津川線 ⑳ 滝新線 ㉑ 滝川市内線 ㉒ 市営・町営バス ㉓ 乗合タクシー ㉔ タクシー ㉕ スクールバス ㉖ その他

問4 利用頻度
 ① ほぼ毎日 ② 週に2日以上 ③ 週に1日 ④ 2週間に1日 ⑤ 月に1日 ⑥ 数ヶ月に1日 ⑦ めったに利用しない

問5 運賃の支払い方法
 ① 現金 ② 回数券 ③ 定期券 ④ 助成券 ⑤ その他

問6 今後、5年間の利用意向
 ① 使い続ける予定 ② 使いなくなると思う

問7 運行便数
 ① 増える①が良い ② 現状維持 ③ 減便は仕方ない

問8 運行時間帯
 ① 早くしてほしい ② このままで良い ③ 遅くしてほしい

問9 運賃
 ① 高い ② このままで良い ③ 安い

問10 免許保有状況
 ① 持っている ② 持っていない ③ 返納した

問11 自動車保有状況
 ① 持っている ② 持っていない

問12 性別
 ① 男性 ② 女性 ③ 回答しない

問13 年齢
 ① 中学生以下 ② 高校生 ③ 18～64歳 ④ 65～69歳 ⑤ 70～74歳 ⑥ 75歳以上

ご協力ありがとうございました。降車の際に調査員へお渡しください。

【調査員記入欄】

		時 分		路線・系統名																																											
乗車	No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40						
降車	No.	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80						
乗車	No.	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120						
降車	No.																																														

5 関係者等ヒアリング調査について

5-1 調査目的

交通モード別・路線別の地域公共交通の維持に係る行政支援の状況や利用状況の把握を目的に調査を実施します。各市町内を運行する輸送サービスについても各市町の関係部局へのヒアリング調査を通じて把握を想定しており、確実な調査実施に向け、調査項目をまとめた「ヒアリングシート」及びオンラインも活用した調査実施を検討しています。

5-2 調査概要

調査時期	<ul style="list-style-type: none">・ 7月中旬～10月下旬を目処に実施※期間内で関係者等と実施日時を調整
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・ 関係者先に直接訪問しての聞き取り・ WEB上での聞き取り・ ヒアリングシートへの記入※上記によらず先方の状況に応じて柔軟な対応を検討
調査対象（案）	<ul style="list-style-type: none">・ 本地域に係る交通事業者（鉄道、バス、タクシー・ハイヤーなどを想定）・ 各市町の公共交通に係る部署・ 各市町の移動に係る部署（福祉部局や教育部局などを想定）※協議会委員を中心に調査を実施
各市町の公共交通に係る部署への聞き取り内容(案)	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通への費用負担に対する考え方、路線維持に対する考え方（関係路線別に整理を想定）・ 自治体内を運行する公共交通や移動支援等について・ 計画記載に求めること・ 本地域の市町間で共有が望ましい事項※聞き取った全内容を計画に記載するわけではなく、必要に応じて内部資料としての整理を想定